

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700034		
法人名	株式会社カマダグループ		
事業所名	グループホーム家族の家		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区一日市926番地		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成25年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんをご自宅で暮らしておられる様な生活を送れる事をモットーとし、利用者さんにとり、安心で心地よい介護に努める。近くに日本海・香住の町並みと絶好のロケーションに囲まれ、自然散策にも事欠かさず、また近くには香住病院・消防署が近くにあり、緊急時においても、安心・安全な好立地「香住山手地区」に位置しています。この恵まれた環境の中で運営理念である「その方がその方らしくお暮らしになれるように何をすべきか考え、その時々で柔軟な対応が出来るように努めています。ご利用者はもとよりご家族にとっても第2の家族の家として施設らしくないアットホームな雰囲気を作り気軽に立ち寄っていただける家でありたいと考えております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①入居者にとっての生活空間演出・・「その方がその方としてその方らしくお暮らしになれるようお支えます。」を事業所理念とし、事業所指向ではなく入居者目線、入居者指向で住み慣れた場所で心やすまる日常を過ごすことができるよう取組んでいる。②本人本位の楽しみ事の提供・・非日常を演出するにあたり、入居者個人が望む楽しみ事となるよう努めている。(誕生日の希望メニュー、祭り参加においての場所の決定(出身地域の祭り・行事に参加)、イベント食での協働等)。③家族・地域との連携・・入居者が日々楽しく過ごせるための様々な意見・アイデア等を運営推進会議等の場面で共有し実践している(外出、食事、化粧、ボランティア活用等)。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一字一句を覚えるにとどまらず、悩んだときの尺度としての理念として位置づけ、すべてのスタッフが共有し実践していきます。	「安心と尊厳のある生活」「あるがままを受け入れ」「自立」「地域住民の一員として」を常に念頭に、ホームが入居者にとっての安らぎの時空間となるよう職員一同取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の秋祭りには、神輿が事業所まで来て下さり、ご利用者の希望によりお神酒の提供をさせて頂きました。休憩場としても利用して戴きました。	地区散策(散歩等)での住民とのふれあい、園児・地元高校生との交流、トライやるウィークの受け入れ、地域祭りへの協力、ボランティアとの協同年々地域との係わりが深くなっている。	ホームが地域の方々にとっての社会資源となれるよう、今後も地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みの継続に期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度より、特別支援学校の児童さんの日中一時支援受け入れを行っています。授業の一環としての高校生体験活動も受け入れ、ご利用者さんの楽しみのひとつとなっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し、区長様より防災訓練のあり方をご指導して戴きました。また、活動に対しては、毎回、アドバイスを戴きサービスの質の向上に活かしています。	地域代表(区長、民生委員)、町・地域包括職員等より入居者の「楽しみ」「安全」について様々な意見・アイデアをいただき日々の生活に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	香美町高年福祉課、地域包括支援センターとの協力体制は保たれています。開所時より、相談、ご指導をして戴いています。	地域ケア会議、運営推進会議等により、町・地域包括職員とは連携を密にし、事業所情報の共有・課題の検討等透明性のある事業所運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を行いすべての職員が身体拘束を行わない方針を定め、チェックシートを使い、日々、自己を振り返っています。玄関の施錠は行っていません。	全職員が、身体的拘束等の弊害を認識し、入居者にとって「自分らしく、暮らせる」時空間を演出することに注力している。玄関の無施錠もその一貫として実施している。	今後も、安全性に配慮した抑圧感のない自由な暮らしの支援の継続を願います。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇研修を受講した職員による職場内研修を行い、尊厳あるおもてなしの心で寄り添い、方言も含み、言葉使いには注意しています。	認知症高齢者の現況、気持ち等を掘り下げて接する技術・必要性等を理解する研修・検討会を実施し、「安心と尊厳のある暮らし」が達成できるよう努めている。また、援助者のメンタルヘルスについても留意している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当地でも独居の方が増える中、権利擁護に関する制度を学ぶ必要性を感じ、研修を受けた職員による職場内研修を実施しました。	認知症高齢者への支援方策の一つであることの共通認識はとれており、管理者を中心としての研修等によるブラッシュアップもはかっている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時におおまかに説明をし、契約書を持ち帰って戴き、次の面接時に十分な時間を掛けて説明をし、納得の上で契約を交わしています。	契約前に見学・質疑応答等、事業所の現況・運営方針を十分理解した上での契約締結となっている。事業所側も入居予定者の状況把握を行い、入居後の穏やかな生活に繋がるようはかっている。	日常的に家族等からの質問が多い内容を職員から収集し、家族向けの「Q&A」の作成もされては如何でしょう。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への通信でご利用者の近況報告や行事等を写真を添えてお知らせしており、施設を訪れるご家族の回数も増えています。	運営推進会議、来訪時、電話等のほか、本年度は家族懇親会を実施し、事業所との距離感をぐっと縮め、奇譚のない意見等を収集する場面・機会が増えるよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議には、オーナーも出席し、職員からの様々な意見や提案を反映させたサービスを提供しています。	定例の職場会議、年2回の個人面談等職員が意見等を表出する機会は設けられており、入居者の生活が改善される環境面、業務の効率化等様々なテーマで具申が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の設備や残業手当等の労働環境を検討し、配慮しています。職員のやりがいに繋がってします。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の研修参加は、管理者からの指名により多数参加しました。受講した内容を職場会議で発表することを義務付けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の管理者の方に虐待防止の講演を行って戴きました。分かりやすくケアの向上に繋がりました。他施設の夏祭りに参加させて戴きました。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での発言や行動、表情から、本人の思いを汲み取れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にメールやFAX番号を伺い、ご本人の様子など初期には、まめに連絡をとるようにしています。要望を聞き出しやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前の面接時、ご家族との対話を重視しています。また、センター方式のシートを記入して戴くことで、困り事を的確に知るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしてあげるという気持ちから、一転してお手伝いさせてくださいという気持ちに変化してきたことは、改善の1つになるのではと感じております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会来訪時には担当職員との面談も勧奨し、ご家族と利用者さんの絆づくりの一環として「共に考える姿勢」を保持したいと努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に「私の歴史と暮らし方シート」を記入して戴き、馴染みの人や場所についての情報収集に努めています。訪問して戴きやすい雰囲気作りに努めています。	散歩中での馴染みの方との語らいや家族との外出(ドライブ、食事)、出身地域での「祭り見学やイベント参加(下浜地区、村岡・長瀬地区等)」など入居者の生活歴を踏まえた遊びごとが継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「和」を大切にしたいと思っておりますが、ご利用者同士のトラブル回避のため、座席の配置に気を配っています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族にその後の状況をお聞きしたり、入居先へ面会に行かせて戴いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、できること、できないことを把握するように心がけています。言葉で表せない方は、仕草や表情から気持ちを理解できるよう努めています。	日々の入居者との係わりのなかで、ご本人の『今』を踏まえ、できる限り「望み・意向」にそう支援ができるようミーティング・申し送り等通じて情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の生活史シート」を、ご家族に記入して戴くことで、できるだけ多くの情報を収集しています。その後の日常会話の中からも情報を得ようと努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活ペースで過ごして戴くため見守りのみを行う場合もあります。過度な介助をしないように配慮しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアで取り組みに努め、ご利用者を理解するためセンター方式シート活用し、ご利用者情報の共有に努め、介護計画を作成しております。担当職員もモニタリングシートを記入しています。	入居者の思い・意向、家族の要望、職員等の意見を踏まえ、より有用性の高い介護計画を作成している。現行計画と本人の現況との整合性確認(モニタリング)も全職員で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人ひとりの日々の様子を個別に記録しており、気づきや情報を共有し、ご本人の望むサービスに近づけるよう介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者はもとよりご家族にも満足していただけるよう、通院支援、買い物支援などできる限りのお手伝いをしています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	海、山と豊かな自然に囲まれた環境を活かし、ドライブに行っています。祭りなどの行事も多く、参加することで地域の方とふれあう機会を大切にしています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して受診されており、基本的に家族対応をお願いしていますが、困難なケースが多く通院介助しています。	入居前からのかかりつけ医を継続受診している。内科・眼科・整形外科等通院介助は、家族と協働しておりご本人の現況を直接把握していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配薬し、適切に服薬できるよう手渡しし、服薬されたことを確認している。職員は、薬の説明書を読み体調の変化がないか観察しています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は家族との連絡を密にし、お見舞いに行き、本人の様子を知るようにしています。退院後の生活を家族と相談しながら対応しています。	入院中は、入居者の不安感軽減及び病院との連携のため看護師・計画作成担当者が頻度をあげて面会している。退院後の予後に不具合がでないよう家族とともに病院と情報交換している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療的処置(入院治療)が長期に必要なになればグループホームでは対応できない事を伝えています。自然な形でのターミナルは行っています。	重度化した場合の事業所での限界点を明確にし、ご本人にとってのぞましい支援が受けられるよう家族・医療関係者と連携している。今年度は、家族・職員協同により事業所で最期を迎えられた方がおられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応については、消防署等指導の下に緊急マニュアルを作成し、実地訓練に取り組んでいます。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練を職員一人ひとりが身につけるため、消防署指導の下、実地訓練を行いました。	年2回の定期訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している。消防署協力の下、課題等が明確になり今後の参考となった。また、有事にはすぐに消防が駆けつけてもらえる状態となっている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者と職員との関係は、家族のようでありたいが、馴れ合いの関係にならないよう方も含め、尊敬ある言葉かけに努めています。言葉のチェックシートを使い、自己啓発を継続しています。	入居者個々人の「自尊心・羞恥心」に配慮しながら、ご本人の強み(調理、清掃、他の入居者への支援等)が維持・継続できるようはかっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ飲み物は何かいいかお尋ねしています。職員の都合で行過ぎた支援を行わないよう気をつけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の都合に合わせて、ご家族や知人と過ごす時間を持ち続けて戴くことを大切にしています。毎週、娘さんと外出される方もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の移り変わりには、ご家族にお願いして衣類の入れ替えをして戴いています。行きつけの美容院を利用する支援やホームにて理容師によるサービスを受けられています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取入れたたり、お誕生日には、本人のご希望の献立にしています。おやつは手作りに心がけ、後片付けも利用者と一緒にしています。	調理、盛付け、配膳・下膳、後片付け等得意な部分を職員と協働しながら『食』を楽しめるよう取組んでいる。誕生日での「希望メニュー」や「手作りおやつ」等非日常の演出もはかっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を毎回、記入しています。食事量の少ないご利用者には、できる範囲ですが、お好きな物を提供させて戴いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員(歯科衛生士)を中心に取り組み、誤嚥性肺炎予防のため声かけや介助により清潔保持に努めています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、早めのトイレ誘導するなど、尿意等残存能力保持を大切に取組んでいます。	入居者個々人の排泄パターンやそのサイン(仕草・表情)を把握し、トイレでの排泄が可能となるよう取組んでいる。夜間帯は、ポータブルトイレを利用している方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけながら個々にあった緩化剤の調整をしています。果物を提供する回数を増やしたり、水分摂取量の確保に努めています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々にそった支援をしている	特に入浴日や時間帯は決めておらず、いつでも入浴して戴けます。入浴拒否の強い方には、男性職員が関わることで、改善しつつあります。	週2~3回入浴を基本とし、ゆったりと穏やかな時間がすごせるよう無理強いせずご本人のペースで入浴してもらっている。季節湯(ゆず湯等)も楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方らしく、お暮らし戴けるよう個々の生活ペースで、休んで戴いています。居室の位置も配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が配薬し、適切に服薬できるよう手渡しし、服薬されたことを確認している。職員は、薬の説明書を読み、副作用がないか観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きなど役割を持って頂き、得意な巻き寿司作り、おはぎ作りもしてもらっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩、日光浴を行なっている。地区行事への参加、季節を感じてもらえるようにドライブに行っています。	日々の散歩や草花への水遣りやグループ内のデイサービスに遊びに行ったり、季節毎の花見(桜、桔梗、紅葉等)、ドライブ(但馬大仏、健康公園他)や花火大会見学等様々な心地よい刺激となるよう取組んでいる。	個々の利用者の心身状況により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物取られ妄想の方がおられるため、現在、所持金は持っておられません。自由に買い物できるようにご家族と相談しながら支援しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から頻りに手紙が送られてくる利用者には、すぐ返事が出せるようにハガキを用意し、不穩時には電話を架けさせて頂けるよう事前をお願いしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつスペースに面する窓から四季折々景色が望め、天井も高く開放的で風船パレーが楽しめる。季節感折紙で季節に合った花を作って飾っている。	玄関口の季節の草花、広く高い天井のリビング、掘りこたつ仕様の畳敷きの小上がり、大きな窓から眺められる景色等落ち着いた穏やかな日々過ごすことのできる空気感の共用空間となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつスペースには2~3人でお話され、気の合った方たちが集り雑談されておられます。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まず第一に安全に過ごせることを考え、ベッド使用の方と畳を敷き布団生活の方、半々となっています。その方らしさが出せるようお孫さんからのプレゼントなどを飾っていただいています。	使い慣れた馴染みのもの(家具、仏壇、位牌、家族写真、お孫さんからのプレゼント等)を持ち込み居心地の良い居室となるよう支援している。また、開閉しやすい引き戸式の扉、畳敷き(布団)、ベッド仕様等ADLの変化へも配慮している。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に備えバリアフリーになっており、ドアはすべて引き戸方式を採用し、少しの力で開閉でき、洗面所等も幾分か低くなっており環境整備に努めています。		